

おわりに

本校は平成元年以来、一貫して教科体育の研究に取り組み、今年で30年目という節目を迎えました。今年度は、新学習指導要領も念頭に入れ、研究を進めてきました。

研究テーマの実現に向けて「教科体育の充実」と「体力の向上」の大きく2本柱で研究を進めてきました。また、新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」についても研究を行ってきました。

「教科体育の充実」では、4つの視点（①意図的・計画的な教師の直接的指導の在り方 ②教材、場づくり・教具の工夫 ③めあてのめたせ方の工夫 ④学び合う場の工夫）に沿った授業展開を工夫し、研究授業を行ってきました。低学年では、児童が夢中になって運動に取り組みながら基礎的な技能を身に付けるための手立てとして、「ストーリー化」や教材、場づくり・教具の工夫をしました。友だちと話し合ったりして場の設定を変えたり、個に応じた運動を選択したりできるようにしました。高学年では、イメージ言葉や発見ボード、ICTを活用しながら、教師の意図的・計画的な直接的指導を仕組みました。「わかる・できる」楽しさにつながる授業づくりを目指して実践を重ねてきたところです。以上のような実践により、運動が苦手な児童が、友だちとかかわり合いながら、自らめあてを持ち生き生きと活動する児童の姿を見ることができました。

「体力の向上」では「体力向上研究部会」のメンバーを中心に、これまでになかった運動遊びコーナーを新設し、実践してきました。全校体育では、年間を通して縄跳びにこだわり実践を続けてきました。「走力」や「持久力」につながる脚力を高めるとともに運動の日常化へつなげることができるとともに、自分自身の伸びや集団での伸びを確かめ、喜び合う姿が多く見られました。また、各教室の前にジャンピングボードを設置したことで、短い休み時間でも友だちと楽しみながら縄跳びをしているうちに、見る見る縄跳びが上達していく児童の姿が常に見られました。更に、朝の「ランランスマイル」や全員遊びの「スマイルハッピーデー」などを通して、運動の日常化が図られてきました。

これまで、目の前の児童の姿にこだわりながら、成果が見られた点、また課題として明らかになった点を真剣に受け止め、研究を進めてきました。その結果、永年の諸先輩の先生方の研究の積み重ねと職員の真摯な取組により、教科体育の研究を継続して30年を迎えられることは大きな喜びです。今後とも皆様の忌憚のないご意見をいただき、これからの研究推進に生かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、これまで永きにわたり本校の研究に、ご指導ご支援を賜りました多くの皆様に心より御礼を申し上げます。

平成31年1月